

原著論文

鈴木浦八の耕地整理事業と磐田の明治農法の展開 — 『畦畔改良要書綴』と寺谷用水 —

中山 正典（静岡県立農業環境専門職大学 生産環境経営学部）

Cultivated Land Consolidation Business and Farming Method of Meiji Period in Iwata
NAKAYAMA Masanori (Faculty of Agricultural Production and Management)

<要約>

全国の明治期の農業において、耕地整理事業が注目されてきたが、その事業展開のなかで、遠江国豊田郡加茂西村の鈴木浦八が大きな役割を果たしたことが分かっている。鈴木浦八関係資料が『鈴木秀治家文書』として、静岡県磐田市加茂西に在住の鈴木秀治家で保管されている。この文書および浦八関係文献より浦八の業績、生涯を確認する作業を行った。その結果、鈴木浦八の耕地整理事業において加茂西村の耕地整理実施前と後の地図に詳細な用排水路を確認でき、耕地整理における農業用水路の機能が理解できた。今一つは、浦八は寺谷用水組合の事務担当長を務め、寺谷用水、社山疏水の整備、管理、拡充に役割を果たしたことが確認できた。

<キーワード>

鈴木浦八 耕地整理事業 明治農法 寺谷用水 鈴木秀治家文書

はじめに

全国の明治期の農業、特に「明治農法」とよばれる運動の展開を見ていると、耕地整理事業が全国に法整備をともなって波及していくとき、遠江国豊田郡加茂西村の鈴木浦八という人物が大きな役割を果たしていることが分かる。この浦八はどのような生涯を送り、地域にとって浦八がやったことがどのような業績として残ったのかを確認したい。

幸い鈴木浦八関係資料が『鈴木秀治家文書』として、磐田市加茂西に在住の鈴木秀治氏のところに保管されている。今回、秀治氏の御厚意でこの文書を見させていただいたが、特に彩色された「耕地整理地区及之ニ隣接スル現形図」を拝見したとき、今まで『豊田町誌』（豊田町、1996）²⁵⁾や須々田黎吉の「鈴木浦八の『畦畔改良意見書(明治33年)』」（須々田、1981）²¹⁾で示された複製図では確認できなかった水路および道が明瞭に確認でき、利水排水という耕地整理には欠かすことのできない条件が読み取れることが分かった。

本稿は、鈴木秀治氏から提供いただいた「浦八

翁の人物像と業績紹介」(2017年)にある秀治作成の「鈴木浦八略歴」を参照させていただきながら、『鈴木秀治家文書』中の『畦畔改良要書綴』を参照して、鈴木浦八の業績と耕地整理、とりわけ寺谷用水との関係をみていった。

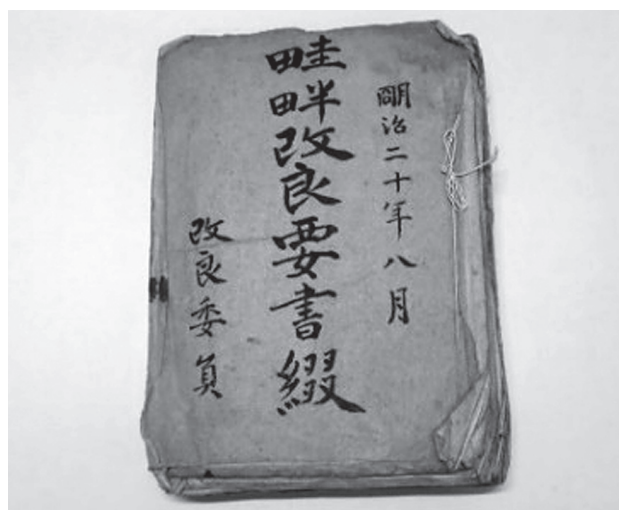


写真1 『畦畔改良要書綴』(明治20年)

1. 明治農法における「静岡式」耕地整理事業

(1) 明治農法

明治期の水田稲作農耕において、江戸時代とは格段に高い生産性を示すことができた農法を「明治農法」とよぶが、その内容を坂根嘉弘は「肥料の多投と耐肥，多収性の品種の導入，その栽培環境の整備」であったという(坂根，2010)¹⁵⁾。この栽培環境の整備とは土地改良の進展を意味する。「明治農法の受容基盤となる土地改良は，耕地整理法を中心に推進された」(坂根，2010)¹⁵⁾。明治32年に耕地整理法が制定され，田地整理とともに，灌漑排水施設の拡充を中心とする土地改良事業が推進されていった。明治期において土地改良事業の大半は耕地整理事業であり，用排水の整備拡充とともに土地改良事業そのものであった。全国においても石川県では七ヶ用水の手取川沿いに展開された耕地整理があり(須々田，1985)²⁰⁾，静岡県でも遠州平野で展開された耕地整理があった。

(2) 静岡県西部における明治農法・耕地整理の展開

明治33(1900)年に耕地整理法施行規則が出され，全国で法律に基づいて耕地整理が実施できるようになった。明治近代において殖産興業が鉱工業の領域で進んでいくが，農業においても，水田稲作農耕の近代化が推進された。静岡県においても特に西部地方，磐田，浜松において耕地整理事業への着手は全国に先駆けて展開された。

「静岡式耕地整理事業」とは明治20年代に鈴木浦八が「石川式耕地整理事業」と競い合って全国に流布した耕地整理事業のことである。

この静岡式耕地整理事業の概要を整理する。静岡県の西部地方は明治近代に入って，全国でも最も早くから耕地整理に取り組んだ地域であった。明治5年には，山名郡彦島村(現在の磐田市彦島)の名倉太郎馬が事業に着手している。また，天竜川西岸の浜松市域では，明治13年に長上郡上新屋村(現在の浜松市上新屋)の本田平八郎が，試験的に田7反1畝1歩の耕地整理を行った。これらの先駆的な事業は，畦畔を直線にし，田の形状を整え，苗の正条植え，用悪水路の改良，耕地の増歩などの好結果を生みだした。静岡式は小規模区画(6間×12～15間)という特徴を持ち，石川式は静岡式に比して大区画(8または12間×20ま

たは30間)であるが，道路，水路と直接接続しているという特徴を持つ(須々田，1985)。

豊田郡加茂西村(現在の磐田市加茂西)の鈴木浦八は，こうした先駆的な事業にさらに改良を加え，明治20年12月に田畑等50町歩の耕地整理に着手し，明治24年に完成した。加茂西村では，道路・用悪水路・畦畔を直線化することによって，長さ約13,984m，面積にして2,636坪(8反7畝26歩)の余剰を生み出し，耕地等に活用する土地を得た。続いて明治28年には富岡村加茂東および匂坂中之郷の二大字においても耕地整理が実施された。そして明治33年には富岡村全体にわたる事業規模が成立し，明治34年着手，明治42年には337町2反にも及ぶ耕地整理が完了した。

2. 鈴木浦八の功績

鈴木浦八の功績の第一に挙げられるのは勿論，耕地整理事業を企画，実施し，またその普及にとめたことである。浦八の耕地整理事業に関わる業績を記録したものは枚挙の暇がないほどであろうが，その快挙が遂げられるにあたり，地域の産業，農業振興のために尽力した功績が多岐にわたっていたことを確認できる資料は少ない。鈴木直之の「鈴木浦八翁」(鈴木直之，1982)¹⁹⁾で触れられている業績は，加茂西の組頭就任，私立学校設立，戸長就任，地租調査委員就任，池田銀行創設，池田橋建設，耕地整理事業の実施と普及，報徳思想の実践，富岡村商店の創設である。ここで，「鈴木秀治家文書」，『磐田郡誌』(磐田郡教育会，1921)¹⁾等を参照して，地域振興のために尽くし



写真2 鈴木浦八(1852～1918)

た結果である業績として9つを挙げる。(1) 耕地整理事業を企画、実施し、またその普及に努めたこと。(2) 富岡村商店を創設したこと。(3) 報徳社副社長を務めたこと。(4) 三遠農学社副社長を務めたこと。(5) 寺谷用水事務担当長を務めたこと。(6) 天竜川治水委員を務める。(7) 池田橋を建設したこと。(8) 私立加茂西郷学校をはじめ学校教育整備に努めたこと。(9) 開墾奨励の先頭に立ったこと。なお、県会議員、郡議会議員、戸長などの政治的な業績はここでは直接的には取り上げない。

(1) 耕地整理事業

耕地の区画整理事業を企画、実施し、またその普及に努めたことである。浦八は明治20年加茂西村の耕地区画整理を行うことを企て、水路改修から着手し、順次村内区画整理を実施した。幅6尺ないし9尺の道路の開設、勾配800分の1ないし1200分の1の水路の整備、零細耕地の分合、乾田化を行った。明治22年に加茂西村約50町について完成した。富岡村の区画整理事業はその後も引き続き行われた。耕地整理事業の普及については、明治23年に第3回内閣勸業博覧会に「耕耘図式」として出品。明治28年には第4回内閣勸業博覧会に「耕地区画改良図」として出品し、「有功2等」を受賞している。明治34年には宮城県農会に呼ばれ耕地整理の講演を連続して行い、宮城県だけでも30ヶ所、聴衆総数2535人に及んだ。浦八が耕地整理の講演、技術指導で足を運んだ県は、岐阜県、高知県、千葉県、山形県、宮城県など十数県に及んだ。

(2) 富岡村商店の創設

浦八は明治29年、富岡村に農産物の共販や肥料などの共同購入を目的とした「富岡村商店」を設立した。これは富岡村農会の監督下に置かれるもので、後の富岡村産業組合に発展するものであった。報徳思想を理念に持ち、農会を積極的に活用する浦八の具体的な地域振興の経営体を作っていた。

(3) 報徳社副社長

浦八は「一人一善運動」を提唱しているが、これも報徳思想の実践事例である。浦八死去3年後に「鈴木浦八君碑」が建てられているが、この碑文には「至誠を貫き、勤労を重んじ、分度を守り、推譲に努める。これは報徳の教の大綱である。こ

の教を受けた人々は、みなこれを信じまたこれを慕っているが、この教を実際に行う者がごくまれである。天竜川の東、加茂西報徳社長の鈴木浦八君はこの教を実行した人で、まことに立派である。」とある。

(碑文は大日本報徳社訓導の橋本孫一郎による。)

(4) 三遠農学社副社長

三遠農学社は引佐郡に「農事ノ精理ヲ探クリ互ニ智識ヲ交換シ己ヲ国ヲ益シ専ラ経世ノ事務ヲ諮詢スル」ことを目的として明治19年、設立された(伴野, 2020)²⁴⁾。三河、遠江の精農家が春と秋に大会を開き、各自が研究している農業における課題を発表し、意見交換をする組織であった。その社長は松島授三郎で安居院庄七に入門した報徳運動家であった。鈴木浦八も安居院庄七とも交わり、報徳運動に共鳴し、農業振興の思想的背景としていた。明治30年12月に三遠農学社の副社長に就任している。設立以降常会では稲の新品種や肥料の試験、農具の改良・普及、馬耕の普及など当時の近代的な農法の研究、普及に当たった組織であった。

(5) 寺谷用水事務担当長

加茂西村は寺谷用水の受益村であり、用水組合にも当然加盟していた。鈴木家は受益地の大庄屋であり、代々寺谷用水管理に関わってきた。浦八も明治12年に寺谷用水組合と社山疏水組合が連合するための組織の創設委員に任ぜられている。この連合は明治18年、寺谷用水組合水利土功会となっている。浦八は寺谷用水の組合管理だけでなく、社山疏水という太田川水系の農業用水にも関係し、その後社山隧道建設にも関わることになる。

浦八は耕地整理事業を行うとき灌漑水路の整備をまず行うとしており、農業用水による灌漑、そして排水が耕地整理には重要な条件と考えており、そのためにも農業用水管理の仕事も重要視した。明治18年に寺谷用水事務担当長(後の事務長)に任ぜられている。事務担当長は事務管理上、常勤のリーダーであった。『寺谷用水誌』によると、明治17年までは寺谷用水組合の加茂西村の戸長委員であったが、明治18年より実務の筆頭者である事務担当長に就いている。明治18, 19, 20, 21, 22年と5年間事務担当長であった。社山疏水、隧道建設のとき寺谷用水の実務責任者であった。

それが、明治23年になると外れ、役員名にはそれ以後一切見当たらなくなる。

(6) 天竜川治水委員

8・9歳の時、七蔵新田の破堤による洪水体験があったことにより戸長時代より天竜川治水には尽力していた。明治14年天竜川全流域237ヶ町村東西連合委員会を作って、天竜川の河川改修を国や県に要求した。この年天竜川治水委員にもなっている。治水への思いは寺谷用水管理や池田橋建設にもつながるものであった。

(7) 池田橋を建設

江戸時代を通じ天竜川東岸の渡船場として栄えた池田に、西岸の笠井から橋を架けようとする。明治15年に計画を立て、池田村の協力者を得て株式会社「昇竜社」を創る。渡船の船頭たちからの反対運動が起きるが説得に努め、明治16年2月に池田橋は完成する。その後池田橋は、明治期において浜松・磐田間の天竜川架橋として重要な役割を果たす。

(8) 私立加茂西郷学校の創設

浦八は明治4年、浜松県庁に私立加茂西郷学校の設立許可申請を出し、許可される。郷学校は8月に開校した。浦八は学校教育、農業教育を常に意識していたのであろう。幼少時から通っていた寺子屋のあった養福寺に建てる。明治29年、磐田市見付に静岡県で最初の農学校である中遠簡易農学校が設立されたが、この誘致に協力した。

(9) 開墾奨励

磐田原台地の開墾を自ら先頭に立って行った。明治39年、水野佐平(加茂東原)との共同で東原開墾を開始し、明治41年までに21町余りを開墾した。蜜柑、甘藷、陸稲の作付けを試みた。

3. 『磐田郡誌』と鈴木浦八

(1) 『磐田郡誌』が記録する鈴木浦八の業績

『磐田郡誌』は静岡県磐田郡役所内磐田郡教育会が編纂者として刊行されている。磐田郡は明治29(1896)年に郡制が施行され山名郡、豊田郡、長上郡の三郡を編入し、その郡域は拡大して4町38村(4町は見付、中泉、山名、二俣)になった。磐田郡役所は見付に置かれ、郡役所がその広域な郡域を誇示するかのよう1302頁の大著を刊行した。

『磐田郡誌』の「36 鈴木浦八(富岡村)」の記

述の中でその略記として次の17つが挙げられている。この『郡誌』が編纂されたのが大正10年であり、浦八が没したのが大正7年である。生前から浦八は著名であったが、死後2・3年の後にまだ生前の印象が残っているところで拾い上げられた役職名、仕事であった。

「六年加茂西村戸長、十年第十一大区二小区二十五ヶ村戸長、十二年加茂西村外三ヶ村戸長、十二年浦役兼務、十四年天竜川治水委員、十六年県会議員、十八年社山疏水事務担当、同年天竜川流域豊田山名敷地長上四郡内二百三十七ヶ村水利土功会議員、二十八年富岡村農会長、二十九年中遠農会副社長、二十九年件農会評議員、三十一年磐田郡米穀改良検査係長、同年報徳社農事講師、三十四年報徳学訓導、三十五年磐田郡会議員、三十七年中遠青年会副総裁、同年中遠米穀改良検査係長となる。」と記している。

ここで示されているのは「戸長」「県会議員」「郡会議員」「社山疏水事務担当」「水利土功会議員」「天竜川治水委員」「富岡村農会長」「中遠農会副社長」「農会評議員」「報徳学訓導」「青年会副総裁」などの役職である。役職名からの粗略なまとめ方であるが、行政、議会、利水、治水、農会、報徳社、青年会における役職を担ったことが記されている。ここでは「社山疏水事務担当」「水利土功会議員」という2つの農業用水の組合の仕事が明記されているに留る。

(2) 『磐田郡誌』における耕地整理事業

『磐田郡誌』には「第15章 産業」に「第10目 耕地整理」が設けられている(磐田郡教育会、1921)¹⁾。ここでは田原村の名倉太郎馬、富岡村の鈴木浦八の耕地整理を取り上げている。旧道路、畦畔を撤去し、新たに道路、畦畔、溝渠等を設け、縄張、定木植えを実施している。「養水不便の地を便利とせしこと」とし、溝渠を敷設して用排水を行っていったことが分かる。そして「耕耘、栽培方法は勿論、種苗の精選、肥料の製造、其の他一切の事物に就き指示奨励する所」としている。「実見上美事なること」と紹介している。

耕地整理に関する鈴木浦八の事業内容および思想については明治33年に浦八自身が筆を執った『畦畔改良意見書』(須々田、1985)²⁰⁾に詳しい。この意見書に掲載された静岡式の土地整理図が示されており、この図の北東隅に寺谷用水の幹線が

流れている。この加茂西村耕地全域に寺谷用水の水が巡っている。浦八は『畦畔改良意見書』の中で「明治十八年以来計画するところありしが、寺谷用悪水路大改良工事中なる都合をもって、年を越え明治二十年八月二十一日、公然県知事の許可をえて、方位正しく実行す。」と記録している。寺谷用水の改良工事に連続して、寺谷用水があることを前提にして耕地整理の事業を起こしたとしている。

4. 鈴木浦八の耕地整理事業

(1) 鈴木秀治家文書

鈴木家は代々加茂西村の庄屋をつとめた家柄である。現在、鈴木浦八から3代下った子孫の鈴木秀治氏が「鈴木秀治家文書」として鈴木家に伝わる文書を所蔵している。既に豊田町誌編纂の際に調査されており、目録ができ、文書は秀治家に戻っている。秀治氏までの系譜をたどってみる。浦八の長女が嫁いだ先が磐田市前野の穂積家であった。その四女が鈴木家に養女として入り、4男1女をもうけた。その長男が秀治氏である。

『豊田町郷土資料目録 第1集』（豊田町教育委員会、2003）²⁶⁾によると、所蔵資料数は近世28点、近現代1647点であり、近現代資料のうち政治・行政関係では、社山疏水・寺谷用水連合工事関係資料の点数が多い。畦畔改良関係資料がそれに次いで多い。報徳関係資料があり、その中に三遠農学社関係の資料が散見される。教育・文化関係では加茂学校関係資料が目される。

(2) 鈴木浦八の『畦畔改良要書綴』

この鈴木秀治家文書の中で資料番号555が『畦畔改良要書綴』である。この綴は86点の資料がこよりで綴りとじられた文書である。明治20（1887）年8月21日の日付が入った「第1号委任証」から始まり、明治44年10月31日の日付が入った「土地改良区改良成績進達正控え」までの耕地整理に関する記録、もらい受けた感謝状の類までがある。主な文書を書き出してみると、「加茂西耕地整理沿革抜粋」（明治20年12月31日）、「土地改良延期御願加茂西村」（明治21年3月31日）、「豊田郡加茂西畦畔改良協賛人名表」（明治22年7月15日）、「第三回内国勸業博覧会出品数賞与数一覧」（明治23年9月）、「第四回博覧会出品願ノ件ニ付上申」（明治27年6月9日）、「出品願（第

四回内国勸業博覧会）」（明治27年6月5日）、「盟約書 富岡村加茂西土地区画改正取調書」（明治31年2月2日）、「耕地整理発起計画書」（明治40年3月）などであり、明治23年と明治28年に内国勸業博覧会へ出品した際の手紙が綴られている。そのなかに「耕地整理発起計画書」があるが、その添付地図として「静岡県磐田郡富岡村加茂西耕地整理築及之ニ隣接スル現形図」と「静岡県磐田郡富岡村加茂西耕地整理築予定図」とが付されている。この2枚は耕地整理前と耕地整理後の加茂西村の水田区画が3000分の1のスケールで示されている。この地図は須々田論文（須々田 1981）にも『豊田町誌』（豊田町 1996）²⁵⁾にも載っているが、この図中の実線はいずれも小縮尺過ぎて水路なのか道なのか、畦なのか読み取ることができない。原図は手書きで赤、青の彩色が施されており、特に寺谷用水、高木用水、前野支線はじめ用水路が青で描かれている。これにより加茂西村において耕地整理前の水路網が整理後にはいかに直線的に機能的に配置されたかがよく分かる。浦八が石川県方式と比較して誇った、幅6～7間、長さ15間、面積約3畝歩が明確に読み取ることができる。

5. 寺谷用水と鈴木浦八

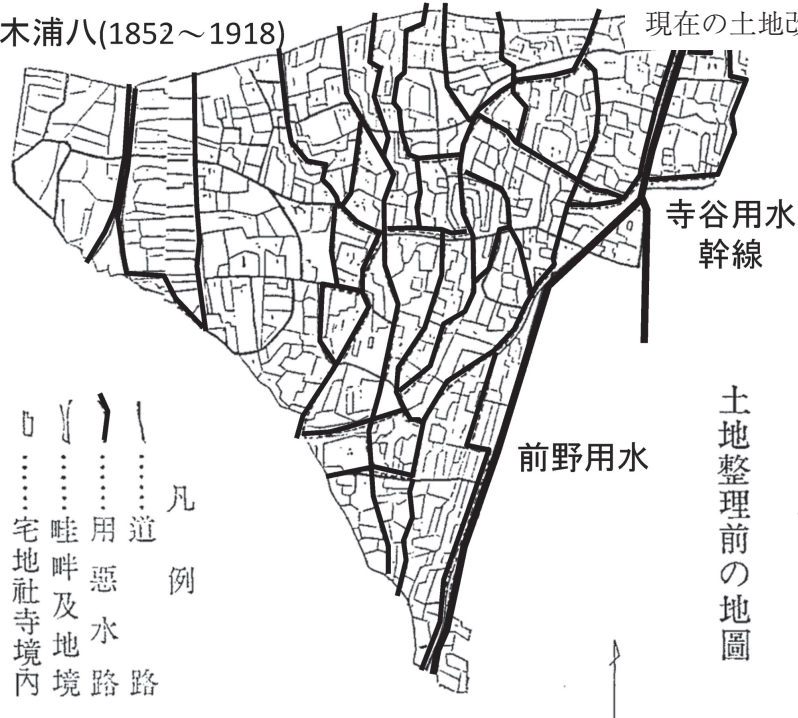
(1) 『寺谷用水誌』（大正14年刊）

寺谷用水の歴史を語る時、現在最も信頼のおける史料として依拠するのは、『寺谷用水誌』（寺谷用水組合、1925）²³⁾である。この『寺谷用水誌』では、寺谷用水の創設から大正14年までの寺谷用水をめぐる歴史を、地方文書、諸史料を引用して大部な著作としてまとめている。『用水誌』には既述のように明治18～22年までの5年間、寺谷用水組合の事務担当長という実務責任者に浦八が就いていることが記録されている。

また、明治24年11月に平野重定の顕彰碑が建立されたが、そのとき建設委員総代として浦八が答辞を読んでいるが、その全文が『用水誌』に記録されている。この内容は、寺谷用水改良を明治15年に企て明治23年に完了したが、「苦情千端、殆んど蒐集すべからざるものありし」、完成するも「未だ精算を遂げず」とあり、最後は「来賓の諸賢に謝す」と挨拶を終えている。これは明治21年に社山隧道工事が設計ミスにより工事中止

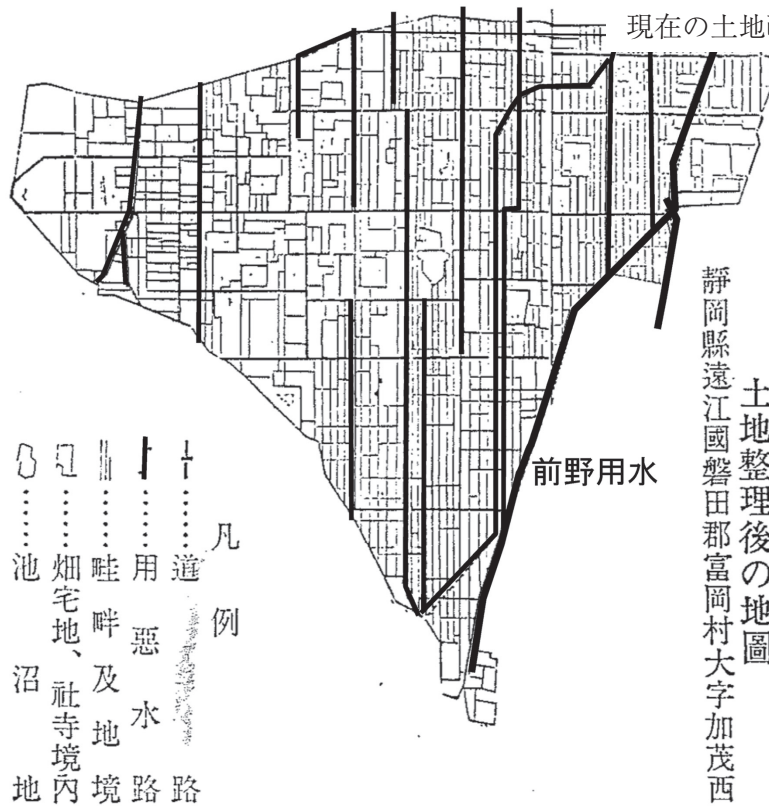
鈴木浦八(1852~1918)

現在の土地改良区の位置



第1図 静岡県磐田郡富岡村加茂西耕地整理築及之隣接スル現形図
(原図に寺谷用水, 前野用水は青色で描かれていて, ここでは太線で示す。)

現在の土地改良区の位置



第2図 静岡県磐田郡富岡村加茂西耕地整理築予定図
(原図に寺谷用水, 前野用水は青色で描かれていて, ここでは太線で示す。)

となり、太田川水系の社山用水へ天竜川の水が行かないことにより、工事の精算を遂げることが困難な状況に至ってしまったことが背景にある。

(2) 社山疏水事業

社山疏水とは天竜川を寺谷用水から隧道で社山を抜き、太田川水系へ導水する農業用水である。浦八は明治18年に寺谷用水組合事務担当長とともに社山疏水事務担当にもなっている。この天竜川の水を隧道で太田川水系に導く計画は、既に天保2(1831)年に犬塚祐一郎によって構想されたという(磐田用水東部土地改良区, 2002)⁷⁾。明治16年6月、山名・豊田・周智・城東の四郡の71ヶ村が社山疏水工事施行の願書を提出し、時の静岡県令大迫貞清がこれを採択し、直ちに内務省に具申した。内務省は工事地の実地検分をし、明治17年2月、社山疏水工事の施工許可を指令し、同時に工費4万5000円貸与を発表した。4月には内務省土木局疏水課が神田隧道から社山隧道までの工事は吏員を派出して設計する旨が伝えられた。この4月に延長723間の社山隧道工事が始まり、8月、この最も至難といわれた大工事の隧道工事は竣工した。10月社山疏水組合水利土功会が設立され、多額の組合賦課金により工事が進められたが、資金不足に陥り、明治18年水利土功会はその負担を県に願い出た。明治19年4月県から更なる5000円の貸付が決り、工事が進められることとなった。

明治20年(1887)6月、隧道は出来上がり、石水門等の建設、水路工事の設計が進む中、石水門設計に誤りがあるという流言が広まった。県知事関口隆吉は取入口の神田隧道、社山隧道および幹支線水路から耕地の灌漑水量に関する再調査を命じた。その調査結果は「設計中不十分の点があって、用水が社山隧道につうじない」とのことであった。たちまち議論百出、組内区域内は至る所「喧々騒擾」「全く収拾の出来ない混乱状態」に陥ってしまった。そして明治21年8月、知事諸公はこれをどうすることもできず、「萬斛(ばんこく、はなはだ多量のこと)の悲涙を払って」、事業中絶の決意をした。寺谷用水にとっては、新たな神田口および隧道の完備によって豊富な水量を確保し、遙か末端の区域まで潤沢に用水を供給できることとなったが、太田川水系、後の磐田用水系においては痛恨の一事であった。

浦八は明治22年に寺谷用水組合の事務担当長および改良工事委員長を辞している。この辞し方が社山隧道工事の中止に直結できるか不明であるが、既述の平野重定顕彰碑建立の答辞文からも、間接的にも関わるものであったろう。

6. 鈴木浦八の生涯

鈴木浦八の生涯を年譜でまとめてみた(第1表)。

おわりに

本稿により、従来の鈴木浦八の調査研究に新たに次の2点を追加することができた。一つは、鈴木浦八の耕地整理事業において加茂西村の耕地整理実施前と後の図に寺谷用水の水路図が明記されることにより、耕地整理における農業用水路の機能が理解できたということ。これは寺谷用水が加茂西村の耕地整理においてどのように役割を果たしたかが読み取れることを意味する。二つには、鈴木浦八は寺谷用水組合の事務担当長を務め、寺谷用水の管理、拡充に役割を果たしたことに着目したことである。この点は浦八の関連年表、生涯の中で寺谷用水への関わりを位置付けることができた。

鈴木浦八という近代の報徳思想の実践者は、今後の全国の明治農法の研究においても、耕地整理事業、静岡方式を唱えた人物として記憶されるであろう。それに加え、農業用水の管理、拡充の推進に着目、尽力したことも忘れてはならないであろう。

<引用・参考文献>

- 1) 磐田郡教育会 1921年『静岡県磐田郡誌』
- 2) 磐田郡豊田町富岡土地改良区 1975年『先覚者鈴木浦八翁の業績について』
- 3) 磐田市 1959年『磐田市誌』上巻
- 4) 磐田市 1991年『磐田市史 史料編二近世』
- 5) 磐田市歴史文書館 2018年『寺谷用水～天竜川下流域の景観を作り出した農業用水～』
- 6) 磐田用水連合会 1952年『磐田用水誌』
- 7) 磐田用水東部土地改良区 2002年『新磐田用水誌』
- 8) 磐田用水土地改良区連合 1983年『水と人』
- 9) 関東農政局天竜川下流農業水利事業所 1985年『天竜川下流水利誌』
- 10) 喜多村俊夫 1973年『日本灌漑水利慣行の史的研究 各論篇』岩波書店
- 11) 喜多村俊夫 1950年『日本灌漑水利慣行の史的研究』

第1表 鈴木浦八年譜

No	西暦	和暦	月	年齢	内容
1	1852	嘉永5年	12	—	加茂西村旗本加々爪領大庄屋役鈴木兵衛門の長男として加茂西に生まれる。
2	1860	万延元年	—	8	七歳新田地区内の天竜川破堤、全村耕地大半、池や高石川原となり、幼児より家人と共にその復旧に当たる。
3	1870	明治3年	1	17	組頭として中泉郡政役所の用務を掌る。
4	1871	明治4年	8	18	「私立加茂西郷学校」(後の富岡小学校)を養福寺に浜松県庁の許可を得て開設
5	1872	明治5年	—	19	名倉太郎馬が彦島村(元袋井市)の耕地30有余町歩の畦畔改良を行い、明治8年に完成させた。
6	1872	明治5年	5	19	浜松県より第1区第2小区加茂西戸長を命ぜらる。
7	1875	明治8年	9	22	地租改正に伴う地租調査委員に任命され、村内地租改正諸調査の任にあたる。
8	1877	明治10年	2	24	静岡県庁より第1大区2小区、25ヶ村の戸長を命ぜらる。
9	1879	明治12年	—	26	寺谷用水組合の設立委員に任せられる。
10	1879	明治12年	4	26	静岡県庁より豊田郡加茂西村、加茂東村、加茂川原中之戸村戸長を命ぜらる。
11	1881	明治14年	10	28	連合委員会を作り、天竜川の河川改修工事を国・県に要求する。
12	1881	明治14年	—	28	天竜川治水委員となる。
13	1882	明治15年	6	29	地域の商工業の振興を求めて池田銀行を発起する。
14	1882	明治15年	—	29	池田橋の建設を計画。熊岡保平等の賛同を得て、(株)昇竜社を創立。
15	1883	明治16年	10	30	磐田郡、豊田郡、山名郡、三郡連合町村会議員に当選。
16	1883	明治16年	12	30	県議会議員に当選。
17	1883	明治16年	3	30	天竜川池田橋の建設工事竣工
18	1883	明治16年	—	30	天竜川治水委員に任せられる。
19	1884	明治17年	5	31	社山疏水寺谷用水組合連合工事談判委員当選。
20	1885	明治18年	—	32	三遠農学社の本社員となる。遠江報徳社に加盟する。
21	1885	明治18年	—	32	寺田用水事務担当長(後の事務長)に任せられる(明治22年まで)。
22	1885	明治18年	7	32	天竜川流域豊田、山名、敷知、長上四郡237ヶ村水利士功会議員当選。
23	1885	明治18年	—	32	社山疏水事務担当に任せられる。
24	1887	明治20年	8	34	畦畔改良の耕地整理図を描く。村人65名で「加茂西村畦畔改良委員会」を結成する。委員長となり、改良委員12名を選び耕地整理に着手する。
25	1888	明治21年	4	35	戸塚弥三治が内閣総理大臣黒田清隆に田形改革の必要を建議する。
26	1888	明治21年	—	35	寺谷用水改良工事委員長に選ばれ、事務担当長と兼任する。
27	1888	明治21年	8	35	寺谷用水水利士功会は、社山疏水工事について県の調査結果「設計中不十分な点があった」により工事中止を決議する。
28	1889	明治22年	—	36	寺谷用水組合の事務担当長および改良工事委員長を辞する。
29	1889	明治22年	1	36	遠江報徳社加茂西社長に当選
30	1889	明治23年	1		加茂西報徳社および遠江国報徳社西部取締役当選。
31	1890	明治23年	4	37	県議員3選なる。
32	1890	明治23年		37	平版会旅事業を第3回内閣勸業博覧会の農林部門に「耕耘図式」を出品し受賞。
33	1892	明治25年	8	39	富岡村名誉村長を辞退
34	1894	明治27年	4	41	県議会議員4選するが、1年余りで辞任する。
35	1895	明治28年	7	42	第4回内閣勸業博覧会に「耕地区画改良図」を出品し、「有効2等」を受賞。
36	1896	明治29年	4	43	農産物の共販や肥料の共同購入を目的に富岡商店(後の富岡村産業組合)を設立
37	1896	明治29年		43	見付に静岡県で最初の農学校・中遠簡易農学校の誘致に協力する。
38	1897	明治30年	12	44	三遠農学社の副社長に就任。
39	1897	明治30年	—	44	率先して加茂西村の耕地整理を唱え、それを実践する。
40	1898	明治31年	2	45	遠江報徳社長より報徳農事講師の囑託を受ける。
41	1899	明治32年	1	46	日刊紙の『中央新聞』に「土地整理の必要」と題した記事を20回にわたって連載する。
42	1899	明治32年	3	46	高知県より耕地整理のため調査を委託される。耕地整理についての講演、指導は全国に及び、静岡県下はもとより、岐阜県、千葉県、山形県、宮崎県など十数県に及んだ。
43	1899	明治32年	3	46	耕地整理法が公布される。
44	1900	明治33年	—	47	産業組合法が公布され、富岡商店は富岡村産業組合となる。
45	1900	明治33年	1	47	耕地整理法施行規則が公布され、法律に基づいて耕地整理を実施することができるようになる。
46	1900	明治33年	7	47	静岡県知事小野田元照ならびに静岡県内務部第四課に『畦畔改良意見書』を提出。
47	1901	明治34年	8	48	浦八は静岡を出発し、9月12日まで宮城県農会の囑託として耕地整理の設計および講話のため巡回した。講話は30ヶ所、聴衆総数は2,535人になった。
48	1902	明治35年	—	48	可睡斎で開かれた帝国農家一致協会創立19周年会で「耕地整理に就いて」の講演をする。
49	1903	明治36年	12	49	加茂西畦畔改良修正工事に着手、追加工事及び土地交換・合筆の徹底化を行ったが明治38年富岡村全般の畦畔改良の実施に伴い字境、水路を修正せざるを得ないことになる。
50	1904	明治37年	—	50	日露戦争下において勅諭を軸物に複製してこれにいくばくかの金を付けて、出征軍人の家、およそ125戸に配布する。
51	1905	明治38年	—	51	磐田原の自己所有の松林1町2反の開墾に着手、ミカン、柿を植え、開墾を奨励する。
52	1906	明治39年	—	52	水野佐平(加茂東原)との共同で東原開墾を開始し、明治41年までに2町余りを開墾する。
53	1906	明治39年	4	52	大日本農会総裁宮より農事功労賞を受賞
54	1906	明治39年		52	報徳学の訓導となり、報徳思想の普及に努める。
55	1907	明治40年	4	53	遠江国報徳社より功労賞を受賞
56	1908	明治41年	3	54	加茂西畦畔改良終局地主総会を開き、大事業完成を祝い、各委員、雇人に対して感謝状、記念品を贈る。
57	1908	明治41年	9	54	加茂西神社より東原に菅原天神・二宮神社を遷宮、明治41年には12戸の農家が居住する。明治43年には30町歩余を開墾し、22戸の農家が入植する。
58	1918	大正7年	10	67	死去
59	1920	大正9年	—	—	源長院(浜松市東区豊町)に三遠農学社副社長故鈴木浦八翁之碑が建立される。
60	1921	大正10年	10	—	大日本報徳社訓導の橋本孫一郎の撰による「鈴木浦八君碑」が35名の発起人により建立される

『鈴木浦八翁100回忌記念』(鈴木秀治 2017年)、『磐田郡誌』(大正10年)、『鈴木浦八翁』(鈴木直之『遠州民論』No.1 昭和57年)等により中山正典作成

総論篇』 岩波書店

- 12) 建設省浜松工事事務所 1982年『天竜川』
- 13) 中山正典 2021年「『磐田郡誌』と大正期の磐田の農業」『磐南文化』47 磐南文化協会
- 14) 中山正典 2016年「天竜川下流域の景観と寺谷用水」『環境と経営』第二十二巻 第一号 静岡産業大学経営研究所
- 15) 坂根嘉弘 2010年「VI近代」『日本農業史』木村茂光編 吉川弘文館
- 16) 静岡県 2000年『静岡県史 通史編5 近現代1』
- 17) 静岡県土地改良史編さん委員会 1999年『静岡県土地改良史』
- 18) 鈴木直之 1979年「土に生きた偉人 鈴木浦八翁」『磐南文化』第3号 磐南文化協会
- 19) 鈴木直之 1982年「郷土の先駆者 鈴木浦八翁」『遠州民論』第1号
- 20) 須々田黎吉 1985年「耕地整理・解題—「畦畔改良」「田区改正」時代から耕地整理法の成立まで—」『明治農書全集 第11巻 農具・耕地整理』農文協
- 21) 須々田黎吉 1981年「鈴木浦八『畦畔改良意見書』(明治33年)」『農村研究』第52号
- 22) 寺谷用水土地改良区 1986年『新寺谷用水誌』
- 23) 寺谷用水組合 1925年『寺谷用水誌』
- 24) 伴野文亮 2020年「三遠農学社報徳部結社主意并規則」『日韓相互認識』第10号
- 25) 豊田町 1996年『豊田町誌 通史編』
- 26) 豊田町教育委員会 2003年『静岡県磐田郡豊田町郷土資料目録』第1集